

主日礼拝説教「あなたに向かって天は開く」

日本基督教団石神井教会 2017年1月8日

【旧約聖書日課】サムエル記上 16章1～13a節

1主はサムエルに言われた。「いつまであなたは、サウルのことを嘆くのか。わたしは、イスラエルを治める王位から彼を退けた。角に油を満たして出掛けなさい。あなたをベツレヘムのエッサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見いだした。」²サムエルは言った。「どうしてわたしが行けましょうか。サウルが聞けばわたしを殺すでしょう。」主は言われた。「若い雌牛を引いて行き、『主にいけにえをささげるために来ました』と言い、³いけにえをささげるときになったら、エッサイを招きなさい。なすべきことは、そのときわたしが告げる。あなたは、わたしがそれと告げる者に油を注ぎなさい。」⁴サムエルは主が命じられたとおりにした。彼がベツレヘムに着くと、町の長老は不安げに出迎えて、尋ねた。「おいでくださったのは、平和なことのためでしょうか。」⁵「平和なことです。主にいけにえをささげに来ました。身を清めて、いけにえの会食に一緒に来てください。」

サムエルはエッサイとその息子たちに身を清めさせ、いけにえの会食に彼らを招いた。⁶彼らがやって来ると、サムエルはエリアブに目を留め、彼こそ主の前に油を注がれる者だ、と思った。⁷しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」⁸エッサイはアビナダブを呼び、サムエルの前を通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」⁹エッサイは次に、シャンマを通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」¹⁰エッサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」¹¹サムエルはエッサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」「末の子が残っていますが、今、羊の番をしています」とエッサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、食卓には着きません。」¹²エッサイは人をやって、その子を連れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」¹³サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しくダビデに降るようになった。

【福音書日課】マタイによる福音書 3章13～17節

¹³そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。¹⁴ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」¹⁵しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。¹⁶イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。¹⁷そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

《洗礼》から始まる新しい歩みへ

アドヴェントのときから聖壇に点されていたロウソクが取りのけられました。今日は、献花だけがなお聖壇に彩りを加えてくれています。聖餐桌の掛布（典礼布）も、「白色」から「緑色」に変えました。一昨日の6日にクリスマスの期節の終わりを告げる「公現日（エピファニー）」を迎えましたので、教会のさまざまなものが「通常」の状態に戻りました。皆さんの日常生活も、年末年始の特別なときを終えて、いつもどおりの生活に戻らていることでしょう。けれども、それは、すべてが元に戻った、というようなことではありません。むしろ、こう言うべきです。「すべてが新しくなりました」、と。

先主日は、元日でもありましたから、わたしは、皆さんに、一つの願いをお伝えしました。この年、わたしたちの教会の交わりの中で、一人でも多くの方が洗礼の恵みにあずかることができるように、祈ってほしい、という願いです。

すでに昨年夏前から、次のイースターに向けて洗礼を受けることを願い出ている方がいます。けれども、わたしは、それで満足をしていません。教会学校の子どもたちはもちろん、この礼拝にすでに加わってくださっている方の中にも、わたしたちそれぞれの家族の中にも、たくさん、まだ洗礼を受けられていない方がいらっしゃるのです。だれが見ても、もう受けていてもおかしくないと思える方が、まだ受けていなかったりする。

洗礼を受けるということは、本当に大きな恵みなのです。わたしたちが一つの決心をするという以上に大きな恵みの出来事です。洗礼は、大きな恵みの事実、神からの贈り物を受け取ることです。その意味では、洗礼は、「受ける」と言うよりも、「授けられる」と言ったほうがよい。わたしたちは、洗礼を授けられて、キリストと結ばれました。今日朗読されなかった聖書日課のローマの信徒への手紙6章で使徒パウロが告げているように、洗礼はキリストと結ばれることです。神がそうしてくださるのです。神が、洗礼をとおして、わたしたちをキリストと堅く結びつけてくださるのです。そして、その洗礼の事実から、すべては始まるのです。すべてが新しくされる歩みが、始まるのです。たとえわたしたちの意志が揺らごうとも、決して後戻りすることのない新しいことが、わたしたちの中で始まる。それが洗礼。

今年、どなたから洗礼を受けたいという決心を聞かせていただけるのでしょうか。洗礼の決心をお伝えいただくことほど、牧師がドキドキするときはありません。おかしなたとえかもしませんが、洗礼の決心をお伝えいただくのは、どこか愛の告白をされるのに似ているのです。

明日は世の中では「成人の日」ですから、わたしも青年気分に戻ってお話をしますが、男女の愛の告白は、ドキドキの連続でしょう。まだ付き合っていない者同士が、お互いを意識し出して、でも、「相手は自分のことをどう思っているのだろう」と思い悩みながら、どこかで、思い切って告白するのでしょうか。言葉にはっきり出してか、行動によってか、それはいろいろでしょうが、自分の思いを相手に伝える。そして、相手の思いを、答えとして聴く。ドキドキの連続です。

「君のことを愛しています」と告白しても、相手が「はい」と応えてくれるとは限らない。「ごめんなさい」と断られることだってあるでしょう。だからこそ、相手が「はい。わたしもあなたのことを愛しています」と答えてくれるときは、まさにドキドキの頂点です。

牧師は、まだ洗礼を受けていच्छゃらない方に向かって、「洗礼を受けましょう」と呼びかけます。わたしは、個別に面と向かってそのようなお誘いを口にするのはいたしません、このような場所からは、繰り返し、皆さんに呼びかける。それは、愛の告白なのです。牧師個人の愛の告白ではなくて、教会の、愛の告白です。「あなたを愛しています。あなたと一緒にいたいのです」。

愛の告白をして、それに「はい」と答えてもらえるか、「いいえ」なのか。いつまでも答えてくださらない方もいच्छゃいます。もちろん、急かすつもりはありません。いつまでも待ちましょう。教会は、愛の告白に答えてくれるのを、いつまでも待ちます。何年でも、何十年でも。もちろん、すぐに答えてくださるならば、うれしいことです。答えてくださらないと、本当には何も始まらないからです。若い二人の関係が、お互いの気持ちをはっきり確かめないでずるずると過ごしていったら、きっと、どこかで行き詰まってしまうことでしょう。それは、本当の二人の関係が始まらないからです。教会の愛の告白に答えて、洗礼を受ける決心を告白してくださるとき、新しい関係が始まります。教会とその人との関係、いいえ、神とその人との関係、イエス・キリストとその人との関係が、そのときから始まるのです。洗礼から始まるのです。

「これはわたしの愛する子」

今日の福音書日課は、主イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けられた出来事を伝えています。クリスマスの祝いの期節に続く最初の日曜日、教会は、伝統的に、主イエスの洗礼の出来事を記念して、御言葉を聴いてきました。福音書に記された順序に従えば、自然とそうなるのです。クリスマスの出来事が物語られたのに続いて、洗礼者ヨハネの活動が紹介され、そのヨハネの活動の中に主イエスが踏み入るようにして、洗礼をお受けになられたと、福音書は物語ります。

主イエスも洗礼を受けられた、ということ、意外に思われる方もあるかもしれません。でも、主イエスが洗礼を受けられたからこそ、わたしたちも洗礼を受けるのです。主イエスは、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられました。自ら進んで、洗礼を受けられました。そして、ご自分の弟子たちに、すべての人に洗礼を授けて弟子にするようにと、お命じになられたのです。ご自分がお受けになられたのと同じ洗礼を、弟子たちにも、すべての人にも、受けてほしいと、主イエスは願われたのです。だからこそ、わたしたちは皆、洗礼を受けます。主イエスが受けられたのと同じ洗礼を、受けさせていただく。

主イエスが洗礼を受けられたそのとき、天が開け、神の霊が降ってきて、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という天からの声が聞こえました。そういう洗礼を、わたしたちも受けたのです。皆さんは、ご自分が洗礼を受けた

ときのことを覚えていらっしゃるでしょうか。多くの方は、そのときは頭が真っ白になってしまっていたので良く覚えていない、とおっしゃいます。それは、当然です。そのとき、天が開かれていたのですから。神の霊が降ってきていたのですから。「あなたは神の愛する子」という天からの声が響いていたのですから。

洗礼を受けるとき、神の愛の告白を聴くのです。「あなたは、わたしの愛する子」。主イエスは、神の愛の告白を聴く洗礼を、あなたたちも皆受けなさい、とおっしゃれた。そればかりか、「あなたたちは、すべての人に、そのような洗礼、神の愛の告白を聴く洗礼を授けなさい」と、主イエスはおっしゃられたのです。

「今は、止めないでほしい」

主イエスが洗礼者ヨハネの前に進み出ていったとき、ヨハネは、洗礼を受けるのを躊躇しました。「自分こそ、主イエスから洗礼を受けるべきなのに」というのです。ヨハネは、洗礼を受ける者は洗礼を受ける者よりも優れた者であるべきだと考えたのでしょう。優れた者が劣った者に洗礼を受ける、という考えです。

けれども、主イエスは、そのとき、ヨハネの考えを良しとさせませんでした。皆さん、これは、わたしたちにとって本当に幸いなことでした。何となれば、ヨハネの考えが通っていたら、わたしは、皆さんの誰にも洗礼を授けられません。わたしが、牧師であるというだけで、誰かより優れた者であるはずがない。何か人間として優れたものがあるから牧師になっているわけではないのです。むしろ、人より劣った者、小さな者をお用いになられる神だからこそ、わたしどもは牧師として立てられている。そういう牧師が、皆さんに洗礼を授けられるのは、主イエスが、ヨハネの考えを良しとしないで、「あなたがわたしに洗礼を授けるように」と命じられたからです。弟子たちにも、同じように命じられたからです。それが、神の御心に「正しいこと」なのです。

主イエスは、ヨハネに、「正しいこと」をお教えくださった。神の御心です。洗礼を通して示される、神の御心です。

神は、人に向けて天を開いてくださる。神は、ご自分の霊によって人のもとにまで降って来てくださる。神は、人に「あなたはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」と、愛の告白をしてくださる。それが、神の御心です。主イエスの洗礼によって明らかにされた神の御心です。わたしたちが受け、また授ける洗礼によって示される、神の御心です。

だから、この営みを決して止めてはいけません。「今は、止めないでほしい」と主イエスはヨハネにおっしゃられた。わたしたちにも、そう命じられるでしょう。「今、洗礼の営みを止めないでほしい」と。

「洗礼の営みを通して、愛の告白を聴いてほしい。愛の告白に答えてほしい」と、主イエスは願ってくださっています。ご自分の洗礼の出来事を通して、わたしたちすべての者に、そう願ってくださっています。

今日、ここにおいでになられた皆さん。この御言葉に触れられた皆さん。すべての皆さんが、洗礼へと招かれています。神の愛の告白へと招かれています。